

よりよいこれからの生き方をお考えの方に

ゆかり通信

Vol.121

陽春号

2024年4月15日

この冊子はエデンの園ゆかり会
会員の方に年4回お届けしています。

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 高齢者公益事業部 **エデンの園**「ゆかり会」情報誌

特集

宝塚エデンの園

職員座談会 /

これまでの45年、そしてこれからの50年

わたしらしさのスペシャリスト

宝塚エデンの園45年と宝塚市70年
これまでのあゆみ



宝塚エデンの園45周年
特別企画職員座談会
「これまでの45年、
そしてこれからの50年」

ご入居者の声に
耳を傾け45年。
つなぐ思い。
つなぐカタチ。

まだ有料老人ホームという
名前がなかった1979年、
兵庫県宝塚市の閑静な住宅街に
「宝塚エデンの園」は誕生しました。
開設45周年を迎え、
これまでの歩みを振り返り、
これからの50年を考えようと、
ベテラン職員と若手職員が
今の思いを語り合いました。



運営管理課 課長代行
なかはら えりこ
中原 江里子
2001年入職

改善する。それを40年以上毎月繰り返した積み重ねが今の宝塚エデンを作っています。
**目指せ！有料老人ホームの5つ星
ご入居者へのアンケートを実施**

中原…大きな転換点で言えば、今から14〜15年前「5つ星の有料老人ホームを目指そう」と始めたご入居者へのアンケートも大きかったです。年に1回、「あなたにとって宝塚エデンの園は星はいくつ?」と満足度調査を行い、そこから改善すべき事柄を拾いあげて取り組みました。
請川…現在、3年に1回全エデンの園で行う満足度調査は宝塚から始まったのですよね。まずはご入居者の声を聴こうという姿勢は、まさに宝塚エデンのDNA。誇らしいことです。

**ご入居者の猛反対で存続
業者を入れず、自前の食を**

大山…それは食も同じです。エデンの食に携わり30

年になりますが、調理師はとにかく味。「これくらいでいいだろう」は絶対に駄目です。味には好みもありますが、美味しさに目的があるとしたら目指すのは70点以上。その上で、年に1回ご入居者の意見を聴く食事懇談会は重要でした。特に開設当初からのご入居者から率直にご意見を言っていたら、調理師によって差があった味付けのバランスも年を重ねるごとに良くなってきました。

請川…管理栄養士が献立を考え、調理師が作るの
は昔からですか？

大山…私が入職した時から変わりません。食事懇談会ではメニューの希望も出るので、居酒屋メニューを食べたいというご入居者の意見を聴いて、何とか喜んでいただくのと両者で考えました。昔は冷凍物がなく9割は生の食材。栗ご飯の時は、4〜5日かけて職員が家で栗を剥いて作ることもありました。

中原…食事を外部業者に委託する施設が多い中、宝塚エデンは自前にこだわっていますからね。以前宝塚エデンでも業者委託を検討したのですが、ご入居者の猛反対で自前を存続したそうです。入居の長い方が「わしが止めたから今の食事サービス課がある(笑)」とおっしゃっていました。

**イベント食や新メニューに挑戦
施設対抗料理対決で
切磋琢磨**

請川…新しい料理が登場する
毎月のメニューは見ていて楽
しいです。考えるのも作るの



食事サービス課 調理師
おおやま ゆうざう
大山 雄三
1990年入職

大山…そうですね。新メニューは昔から力を入れていますが、10年程前から始まった施設対抗料理対決は、メニュー作りや調理技術の向上にも役立っています。クリスマスやお正月などのイベント食も大変です

**「もっと園を良くしよう」
ご入居者との意見交換を毎月**

請川…これまでの園の歴史を語る上で欠かせないのは、毎月ご入居者の代表の方たちと意見交換をする運営懇談会です。開設間もない頃から、園の運営に関して自治会が結成されたりと、ご入居者の意見が吸い上げられる仕組みがあり、1983年に運営懇談会が設置されています。

中原…今現在も運営管理課が事務局となつて年に11回開催しています。運営懇談委員は各棟から選出された12名で構成されており、時には厳しい意見もいただきますが、それがひとつひとつの改善につながりますから本音でお話いただくのは本筋にありがたいです。

請川…聖隷福祉事業団として、宝塚エデンの園は2番目の有料老人ホームであり、関西地区では初めての大規模ホームであったため前例のないことがほとんどだったと思います。ゆえに、昔はもっと厳しい意見が多かったようです。

ご入居者が「もっと園を良くしよう」と熱意を持って話していただけるので、私たちも真摯に耳を傾け、も大変では？

上田…調理師のみなさんは、相談すれば何でも答えてくれますし、アドバイスも貰えるので、とても助かります。新しい料理は年配のご入居者に理解いただくのが難しいですが、食を楽しんでいただきたいので色々と試しています。先日もハワイの料理に挑戦しましたが、食数はあまり上がりませんでした。



食事サービス課 管理栄養士
うえだ ともか
上田 友香
2015年入職

清藤…私が聞いたご入居者は「初めて食べたけど美味しかった。新鮮で楽しい」と言っていましたよ。

上田…それはとても嬉しいです。業者を入れない食事サービス課は宝塚エデンの強みなので、調理師のみなさんと二人三脚でこれからもご入居者の声に応えていきたいと思っています。



園長
うけがわ てつや
請川 哲也

が、他部署の方々と一緒に仕事するのは楽しく、みなさんの思いを聞くことで連携が強まります。園のイベントはここ20年で随分と増えました。

生活サービス課の誕生により イベントやクラブ活動が活性化

中原：私が最初に配属されたのが生活サービス課でした。生活サービス課は行事の企画運営、フロント業務やクラブ活動の支援、地域向けのイベントなどを担当するのですが、C棟2期棟が完成された2000年10月に課として誕生したと聞いています。それまでは運営管理課(当時は業務課)が行事の

運営も行っていましたが、自立して生活するご入居者にとって一番身近な存在になっていきました。様々なイベントを開催することで、ご入居者も職員も、園全体が一体となり、色々と変わっていったと思います。25周年記念などの節目に行う一泊旅行も生活サービス課ができてからです。

大山：季節の行事に加え、誕生者会やコンサート、本当に1年中忙しそうですね、大変ではないですか？



一般居室ケアサービス課 介護福祉士
きよもと えりか
清藤 恵里香
2010年入職

と思えるケア、家族が安心して任せられるケアのあるべき姿を伝えていきます。

清藤：私は以前の介護居室から一般居室担当になり、自立から要支援、要介護へとつなぐ役割で診療所や生活サービス課の方から色々な情報ももらい、いかに今の居室で長く暮らせるかを職員みんな考えてながら、上手く介護居室につなげていきたいです。山本：介護居室への住み替えでは連携が大事。今は介護居室の担当がそれまでの環境を知った上で、両者で話し合いながら生活環境の変更を実施しています。部署間の連携がスムーズなのも宝塚エデンの強みですね。

安心の拠りどころ 附属診療所 各部署との連携を大切に

中川：私は入職して5年ですが、部署間の連携が良く、小回りや気配りが利く施設だと感じています。附属診療所で入院もできる施設は全国的にも珍しいです。45年の歴史の中で、ご入居者の安心の拠り

中原：やることは多く大変でしたが、それ以上にご入居者と一体になれる嬉しさと楽しさがありました。みなさんの笑顔が何よりも嬉しいですから。仕事だからではなく、自分たち自身が楽しむことを忘れないようにしていました。

後輩たちに伝えていく思いと 若手の意見も積極的に聴く姿勢

山本：私が歴史を感じるのは2000年のC棟2期棟増築。その翌年の入職ですが、介護居室に新しいフロアができる時、それまでのA、Bフロアという呼び方を変えようと職員全員にアンケートを実施しました。一番多かったのが宝塚歌劇団にちなんだ、月、星、宙。雪は冷たい感じがするから花にしよう。社歴を問わず、職員の意見を積極的に取り入れる姿勢も宝塚エデンのいい所です。

清藤：その通りです。私も入職してすぐの時から色々と提案させていただきました。わからないことが多い中でも「こんな方法はどうでしょう?」と言いやすい雰囲気があります。「じゃあやってみよう」と一緒に動いてくれる先輩たちは本当に頼りになります。

山本：介護居室でレクリエーションを検討し、当時5年目の私の発案で運動会を開催した時もそうでした。「無理よ」という声もある中、家族や職員と交流する場になるからと話し合って実現し大好評。あれから10年以上、毎年開催して、介護居室の一大イベントになりました。後輩たちには、フロアの名前同様、ご入居者に喜んでほしいという職員の思いを一番大事に引き継いでいます。

どころとなるように、園全体で育んできた連携力なのだと思います。

清川：医療とセットであることが宝塚エデンの最大の魅力と強みです。開設当初からある診療所も、ご入居者の意見を聴きながら改善を繰り返してきたようです。

中川：私は入院担当ですが、夜間対応や外来などで、ご入居者と関わることや部屋まで伺うこともあります。目指すのは生活に寄り添う看護。ご入居者との信頼関係を築き、「中川がいれば安心」と思っていたがながら、検診や予防医療などの健康維持にも力を入れていきたいです。

心が通じるサービスの根拠は 職員がワクワク働けているか

中原：近年は、時代の流れに合わせてIT化やデータ活用も進めています。介護の現場では見守りシステムを導入しました。今後は移行する部分と守る部分のバランスが大事です。誕生者会や旅行も復活し、「コロナ禍以前」の暮らしに戻りつつある今、45周年を機に、もっともっと明るい園にしていきたいと思えます。

清川：みなさんの話を聞いて、



附属診療所 看護医療技術課係長 看護師
なかがわ たかし
中川 崇史
2017年入職



介護居室ケアサービス課 介護福祉士
やまもと まきこ
山本 真樹
2001年入職

自立から要支援・要介護とつなぎ シームレスなサービスを提供

清川：2000年に介護保険が始まりましたが、介護の現場ではどんな変化がありますか？

清藤：要介護や要支援の段階によりケアの内容が限られるため、介護保険導入以前より制限が増えたという話はよく聞きます。提供したいけどできないという葛藤の中、ご入居者にとってより良いケアを職員みんなで話し合っています。エデンでは自立支援の考えが根本にあり、特に先輩方から引き継がれているのは残存能力を活かしたケアです。

山本：確かに制限は増えましたが、「ご入居者にとってより良いケアとは何か?」を突き詰めるのは昔も今も変わりません。私たちの永遠のテーマです。高齢者虐待やパーソン・センタード・ケアなど、以前は無かった言葉や考え方など、勉強する機会も増えましたが、事例を取り上げ、考え、実践する、その繰り返しです。後輩たちには、創始者長谷川保が唱える「隣人愛」を大切に、ご入居者が「ここにきて良かった」

ご入居者と職員の「施設を良くしよう」という強い思いがあった今があることを改めて実感しました。「高齢者にとって楽しく生きがいのある安心した生活の場」として始まったエデンの園は有料老人ホームの先駆けです。全国約1万6000の施設の中でも先進的と言われますが、老舗だからといって胡坐をかいてはいけません。みなさんが話してくれた大切なものは守っていく、一方で変化する時代に合わせて自分たちも変化していく必要があります。その大前提となるのが、職員が誇りを持って良い仕事をする事。長谷川保は世界する直前、管理者達に「職員をワクワクさせることが君たちの仕事だぞ」と話したそうです。ご入居者への心が通じるサービスの根拠はそこにあります。

これから50年先も宝塚エデンを永続させていかなければなりません。約2年後には日本でも類を見ない大規模建替工事が始まります。これまでの45年間で積み上げてきた思いやカタチをみんなで作っていくながら、ご入居者も「家族も職員も今まで以上に「宝塚エデンで良かった」と思える施設にしていきたいです。



宝塚エデンの園45周年記念ロゴ

新たな時代の幕開け
また、新しいページを開こう

45th
ANNIVERSARY

職員が考えたデザインから
ご入居者と職員の投票で決めました。

宝塚エデンの園を支える職員たち

わたしらしさの スペシャリスト



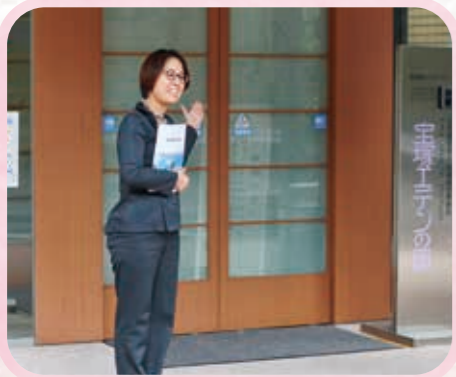
宝塚エデンの園には様々な部署があり、多くの職員が働いています。ご入居者が安心・安全に笑顔で暮らせるように、自分らしく役割を全うしようと日々努力を続ける職員たちには、インタビューしましたのでご紹介いたします。

ご入居まで安心サポート
経験豊富なアドバイザー



入居者募集センター
係長
やました さやか
山下 明佳
2004年4月入職

宝塚・横浜・藤沢と3カ所のエデンの園で、運営管理課・生活サービス課・入居者募集センターなど様々な業務の経験を持つ、社会福祉士の山下さん。現在は、入居検討の方への園内案内・イベント企画・広報活動、入居申込や契約業務を行っています。ご入居者から「ここに入っ



てよかった」というお声をいただけることが、最も嬉しい瞬間とのこと。入居検討の方が本人が気づいていないニーズにも気づけるようにと、更なる「聴く力と専門知識」の向上に取り組んでいます。

施設の「顔」。
フロントのスマイルコンシェルジュ



生活サービス課
まき みね
峯 さやか
2023年2月入職

フロント対応やご入居者の利便サービスを担当している峯さんは、いつも明るく元気で、どなたにも聞き取りやすい歯切れの良い話し方が魅力の一つです。フロントの業務中は、ロビーを見渡すなど広い視野を意識し、ご入居者へのきめ細やかな対応を心がけているとのこと。また、園内外で開催される季節の行事やイベント等の企画、運営、実施も全力で取り組んでいます。課のメンバーと共に



明るく親しみやすいフロントを目指し、皆様に頼られる存在でいたいと願う、明るい笑顔の持ち主です。

数字で施設を支える
マネーのプロ



運営管理課 経理係
やまだ ひろと
山田 啓斗
2018年4月入職

出納業務や月次決算といった経理業務に加え、介護保険請求などの業務に携わる山田さんは、その専門知識を活かし、コンプライアンスを意識した最適な提案を常に目指しています。優先順位を整理し、関わる人に満足してもらえるよう努める姿勢が魅力です。ご入居者にとっても職員にとっても、より良い施設にしたいと思う気持ちを、入職から一貫して持ち続けています。業務効率化のためにエクセル表の作成や新しい運用の提案をしたり、ご入居者からお金に関する相談を受けた時に、喜びと責任を感じるとい



理のプロです。

介護支援を事務で支える
勉強熱心な努力家



一般居室
ケアサービス課 係長
かわしま とも
川嶋 智
2013年4月入職

生活に関わる支援（病院付添・居室訪問・服薬管理等）もしながら、ご入居者の介護サービス計画書作成や、関係各所との調整、介護保険に関する相談支援や事務手続きが川嶋さんの仕事。事務作業を通してご入居者に満足していただける支援につながるよう、また、職員が働きやすい環境作りができるよう、業務に取り組みんでいます。常にご入居者の立場に立つて物事を考え、どんなシーンでも対応できるよう、より良いサービス提供のために日々の勉強や自己研鑽を怠らない、とても頼りになる努力家です。



料理への愛情は誰にも
負けない「食」の達人



食事サービス課
調理師
まえかわ こういちろう
前川 浩一郎
2020年4月入職

四季折々の美味しい食事をご入居者に提供する前川さん。その日の食事がご入居者にとって最後の食事になってしまふこともあるという覚悟を持ち、絶対に中途半端なもの、妥協したものは提供しない、いつでも最高のものを提供する姿勢を大事にしている調理師です。「料理への愛情は誰にも負けない」と語る前川さん。ご入居者にもっと喜んでもらえるためにどう工夫をすれば良いのかを、自身に問いかけながら、更なる専門知識を身につけた「専門調理師」を目指しています。



宝塚エデンの園45年と宝塚市70年 これまでのあゆみをふりかえってみました。

■宝塚エデンの園のできごと		■宝塚市のできごと	
開園	1979年(昭和54年) ●4月開園・250戸 ●診療所併設 ●囲碁クラブ・第1号クラブとして発足	1954年(昭和29年)	●宝塚市が発足
1	1980年(昭和55年) ●むつみ会 第1回総会		●武庫川沿い新市庁舎完成
2	1981年(昭和56年) ●第1回入居者バス旅行 ●自治会結成		●国鉄福知山線、塚口-宝塚電化工事が完成
4	1983年(昭和58年) ●運営連絡会設置 ●互助基金制度を制定		
5	1984年(昭和59年)		●市立病院が開院
8	1987年(昭和62年) ●第1回納涼祭		●市の人口20万人突破 ●現宝塚大学開学
10	1989年(平成1年) ●生活サービス課設置 ●開園10周年記念誌発行		●非核平和都市宣言
12	1991年(平成3年) ●診療所ベッド数16床→19床		
14	1993年(平成5年) ●静養室設置(現在の一時介護室)		●市立国際・文化センターが完成 ●ソリオたからづか完成
16	1995年(平成7年) ●阪神淡路大震災・地域の方に大浴場無料開放 ●宝塚エデンの園増築プロジェクト発足 ●聖隷福祉事業団施設(浜松)見学旅行		●1月17日、阪神・淡路大震災発生 ●市犠牲者合同慰霊祭を開催 ●震災復興計画を策定 ●市立老人保健施設ステップハウス宝塚完成
17	1996年(平成8年) ●ふるさと21健康長寿のまちづくり事業(WAC)認定		●総合防災システム完成 ●人権尊重都市宣言
19	1998年(平成10年) ●増改築第1期工事完成総戸数255戸(一般居室249戸、介護居室6室)		●健康都市宣言
20	1999年(平成11年)		●ピビアめふ・シネピビアオープン
21	2000年(平成12年) ●増改築第2期工事完成総戸数408戸(一般居室358戸、介護居室50戸) ●疾病予防運動センター(ドルフィン)開設 ●高齢者総合福祉センター開設		●コミュニティFM放送局エフエム宝塚が開局 ●「花のみちセルカ」オープン ●あいあいパークオープン ●第1回宝塚映画祭開催
22	2001年(平成13年) ●生活サービス課開設		●長尾山トンネル道路が開通
23	2002年(平成14年) ●入居者介護互助会発足 ●「高齢者総合福祉センター」を「ゆずり葉プラザ」として地域開放		●市立宝塚温泉オープン(現ナチュラルスパ)
24	2003年(平成15年) ●C棟2階介護居室 改築工事完了		●特例市に移行 ●さらら仁川オープン
25	2004年(平成16年) ●開園25周年 ●25周年記念事業		●関西学院大学と都市再生に向けて協定を締結 ●宝塚市制50周年
26	2005年(平成17年) ●棟別懇談会、入居者満足度調査 実施開始		●第1回宝塚ハーフマラソン大会を開催
29	2008年(平成20年)		●すみれ墓苑オープン
30	2009年(平成21年) ●開園30周年 ●ISO9001取得 ●診療所院外処方開始 ●30周年記念祭		●宝塚文化創造館プレオープン
31	2010年(平成22年) ●共同墓苑、竣工/第1回慰霊祭 ●院外薬局ニシイチ開設		●JR宝塚駅の橋上工事が完了 ●第1回宝塚学検定実施
32	2011年(平成23年)		●宝塚医療大学が開学 ●第1回宝塚だんじりパレード開催
35	2014年(平成26年) ●開園35周年		●宝塚歌劇団が市民栄誉賞を受賞 ●市制60周年・宝塚歌劇100周年・手塚治虫記念館20周年トリプル周年
38	2017年(平成29年) ●入居者介護互助会解散		●宝塚市・松江市姉妹都市提携50周年
40	2019年(令和1年) ●開園40周年 ●40周年記念式典		●文化芸術センター完成
42	2021年(令和3年) ●第1回コロナワクチン接種		●第6次総合計画策定
43	2022年(令和4年) ●見守りシステム導入		●兵庫医大、阪急、宝塚大学と連携協定締結
44	2023年(令和5年) ●LINE公式アカウント開設		●第二庁舎完成
45	2024年(令和6年) ●開園45周年		●宝塚市制70周年

Takarazuka



く、「皆さんとマスクなしでお話しするのが楽しみ」という、ご入居者に寄り添う気持ちに満ちた方です。

診療所での受付、会計などの窓口業務や、診療報酬請求など医療事務全般に携わる澁井さん。その明るい笑顔と優しい対応は、体調に不安があり受診されるご入居者の心に元氣と安らぎを与えます。電話の対応では、「顔が見えない分、相手が不愉快な思いをしないように」と、努めて明るく元氣な発声を心がけるといいます。相手を幸せな気持ちにする声の持ち主。マスク越しの日々が続く



附属診療所 医療事務課 しぶい やすこ 澁井 弥寿子 2022年10月入職

ご入居者に元氣と安らぎ 診療所のハッピーボイス



の言葉が一番嬉しいのと。相手に対して常に思いやりのある丁寧な対応を心がける、看護師の鏡です。

入院や外来を担当する辻本さんは、患者さんが今よりも良くなるために何が出来るかを常に考え援助する、経験豊富な看護のスペシャリスト。食事が大好きで、チャージしたエネルギーを仕事に活かす、とてもパワフルな方です。夜間帯にご入居者が突然の体調不良を起こした際や診察介助・外部搬送の対応後にいただく、ご入居者からの「本当に助かった」「エデンを選んで良かった」



附属診療所 看護課 看護師 つじもと りえ 辻本 利恵 2015年5月入職

大好きな食事でパワーチャージ 宝塚エデンの白衣の天使

目指せ スペシャリスト!

[着任のご挨拶] 入居者募集センター相談員 高島 朋子(たかしまともこ)

2023年12月1日付で宝塚エデンの園入居者募集センターに異動となりました高島朋子と申します。私は5年ほど前に一般居室の事務として入職し、その後介護居室で事務と見守り業務をしてまいりました。新しい部署で戸惑うばかりの毎日ですが、吸収することを怠らず努力していく所存でございますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



宝塚 エデンの園から

お問い合わせ

詳細につきましてはフリーダイヤルにお問い合わせください。 [月～金曜日9:00～17:00 土・日・祝を除く]

☎0120-87-1165

募集対象空室情報

[2024年4月1日現在]

2室入居可能

